

## 『満足ある生き方を！』 コロサイ2:20-3:3

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

2:21 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。

2:22 これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。

2:23 これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙そんと、からだの苦行とをとともなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。

[ 3 ]

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。

3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

## ●序論

引退された先生が引用した聖書箇所とお証

ピリピ4:12 「わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。」

自分の牧師としての生涯を振り返ってこうお話になりました。

「神さまは、わたしに貧しさに処する生き方を教えるために、徹底して貧しさの中で主に信頼することを教えてくださいました」と。

すでにお子さんたちの幾人かが献身者の道を歩まれ、またお孫さんたちもその信仰の道に続いています。その老練の牧師先生のお話には、その貧しさを語る中での、主にある満足感を感じました。

ところでみなさんは、今、満足されているでしょうか？

## ●本論

満足ある生き方は…

I. キリストに結ばれて生きることです

2:6-7 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって（結ばれて）歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

先ほどお話した、老練の牧師のお証から感じたのは、満足感でした。  
それは、キリストと深く強く結ばれた者としての満足感ではなかったかなと思います。

だからこそ申し上げます。キリストに結ばれて生きることこそ、満足の鍵となります。  
「キリストを主とし、キリストに結ばれて生きている安心感」を深く味わっているということです。

コロサイの手紙では、そうでない姿も身近にあるね…ともお話しします。  
2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。

リビングバイブル訳ではわかりやすく「だれからも信仰と喜びが奪われないように注意しなさい」と訳します。

「詐欺」。それは、人をだまし、勘違いさせ、金品を奪うような犯罪行為を言います。  
ここでは、いわゆる「靈的詐欺師」がいるということです。  
詐欺ですから、想像してください。それは人の耳に心地よく響き、本物であるかのように聞こえることがあるのです。だからこそ注意が必要です。

そして、聖書が、これぞ本物として証しするものの完全さを覚えましょう。  
それは天地万物の造り主である神さまのことです。  
この神さまが、私たちを愛し、大切にしてくださっているということです。そしてご自分の元に迎えようとしてくださっているということです。

事実、そのために、ひとり子イエス・キリストを遣わしてくださいました。  
キリストが経験した十字架でのいのちの犠牲と復活を通して、私たちに死で終わらないもの、絶望で終わらない永遠の命と喜びを見せてくださっているのです。

だからこそ、このキリストに結ばれて生きることです。  
そうすれば、その靈的な安心と満足はだれにも奪われることがないということです。  
2:6-7 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって（結ばれて）歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

満足ある生き方は…

## Ⅱ. 惑わされないことです

再度、「惑わされないで！」と語る言葉が20節以降に続いています。

今、2026年を迎えて、正月早々、世界中にさまざまな出来事が目まぐるしく起きています。このあと、いったいどうなるのか…と思います。

そういう時代に生きるからこそ、聖書が言うことがわかります。

2:22 これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。

文脈から見るなら、それは、神さまの側からいただいた、恵みの福音をゆがめることがある。それは、人がつくったものによってです。

言われているのは、そういう人間が、自分たちにわかりやすく、納得しやすいものは、古びるもの、また使えばつきてしまうものだということです。

2:23 これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙そんと、からだの苦行とをともなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。

わたしたちには、人の称賛や認められること以上に、大切なことがあります。

それは、神さまが下さっている福音です。

わたしは、そのまますでに神さまに愛されているということです。

キリストを通して、完全に赦されているということです。だから、救われていることを感謝するところから始めることこそ、大切なOKなのです。

神さまの完全な愛の御業、十字架の御業、その愛と許しにこそ目を向けるものでありたいのです。

満足ある生き方は…

### Ⅲ. 上にあるものに目を向けます

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。 3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

「上にあるものを求めなさい」。それは、神さまが約束してくださったいのちの祝福に目を向けていなさい、ということです。

そして、「わたしたちのそばにキリストがいるじゃないか…」と気づかせてくれています。 そんなわたしたちの生き方がある。

現役医師として105歳で天に召された日野原重明先生はクリスチャン。彼は「新老人」という言葉を使って語ります。それは、70代以降の第三の人生のススメでした。

その勧めにあるのは、自分のために生きる生き方から、「自分を与えて人のために心をこめて生きる」という生き方の転換だということです。

私たちクリスチャンにとって、それはキリストにならう生き方だといえるでしょう。私たちの思いは、この地上のものにはない。むしろ、「上」にこそある。そこで私たちが気づかされるのは、私たちのために十字架にかけられよみがえられた、永遠の命の主イエス・キリストであり、その方をわたしたちの生き方の模範とすることなのです。この方を見上げて生きるということです。

そして日野原先生のこう語ります。

すでにいのちが与えられているからには、それをどのように用いて、神さまにお返しするのかということが宿題となっているのです。与えられたわたしたちの命を自分らしく使って、最期には、その自分を神さまにお返しするべきなのです。

実は、これもまた「上にあるものを求めて生きる生き方」。そして、それが満足ある生き方として、わたしたちにもわかるでしょう。

#### ●おわりに

今日のテーマは、「満足ある生き方」です。聖書はこうも語ります。

2コリント9:8

神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ（満足を与え）、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。

ここでも、満足ある生き方は、「神さまが」与えてくださるものだと言います。

日野原先生の言葉にもありました。

自分のために生きる生き方から、「自分を与えて人のために心をこめて生きる」という生き方の転換を。

そして、今日、最初にお話した、老齢の牧師の語る言葉もそれを象徴していました。

ピリピ4:12 「わたしは貧に処する道を知っており、…」という言葉を紹介し、さらに、神さまは、わたしに貧しさに処する生き方を…教えてくださった」と、神さまが与えてくださるゆえの、満足と喜びを語ったのです。

それもまた、御国を見上げるものの生き様です。あの御言葉には次の言葉が続くのです。

ピリピ4:13 「わたしを強くしてくださる方によって何事でもすることができるよう」

ここに神さま由来の「満足ある生き方を！」神さまが可能にしてくさるのです。